

1 調査目的

児童の学力・学習状況を把握することにより、学習の課題をつかみ、指導の改善に生かすとともに、一人ひとりの児童の教育指導に役立て、学力の向上を図る。

2 結果の公表の趣旨

結果を公表することは、保護者や地域住民の方々に対し、説明責任を果たすことになる。また、分析した調査結果は、山王小学校における教育活動の改善に生かす。ただし、この調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎない。

3 調査実施日・対象学年

令和3年5月27日（木） 第6学年

4 結果の概況

(1) 教科に関する調査

<国語>

○どの分野も正答率が高かった。中でも「話すこと・聞くこと」の資料を用いた目的を理解することが特によくできていた。

●「読むこと」では、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する力には課題が見られた。

○出題形式から見ると「短答式」「記述式」解答の正答率が高かった。中でも目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見付け、記述で解答することがよくできていた。

●「選択式」解答では、文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることに課題が残った。

<算数>

○領域では「数と計算」「図形」「データの活用」の正答率が高かった。中でも「データの活用」の棒グラフから数量や項目間の関係を読み取ることが特によくできていた。

●「変化と関係」の速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことに課題が見られた。

○出題形式から見ると、どの解答方式においても正答率が高かった。中でも「記述式」解答は帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合について記述で解答することがよくできていた。

●「選択式」解答の複合図形の面積の求積について、量の保存性や加法性を基に捉え、比べることに課題が残った。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 早寝早起き朝ごはんなど規則正しい生活ができている。
- 物事を最後までやり遂げた達成感や友達と協力してやり遂げた喜びの体験を得ている。
- いじめを許さない意識，人の役に立ちたいという心が育っている。
- 自分の気持ちを言葉で表したり，自分と違う意見を聞いたりして学習しようとしている。
- 自分自身のことについて聞かれた時に，自信をもって回答できない児童が多い。

5 改善に向けて

(1) 目 標

- 個に応じた指導の時間を確保するため，ドリルタイムを設定し，基礎基本を定着させるための内容を工夫して行う。
- 校内研修の充実を図り，道徳科を中心に言語活動を通して理解を深め合えるような授業構成を意識的に取り組んでいく。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行う。
- 家庭学習に自主学習を推奨し，進んで学習する児童の育成に努める。
- 生徒指導の3機能（「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」）を生かした授業を実践し，個に応じた指導・支援を心掛け，児童のよさや将来性を伸ばしていく。
- 児童一人ひとりを大切に，安心して学校生活を送れるようにする。

(2) 方 策

- 日常の授業実践の中で，ペア学習やグループ学習での話し合い活動を適切に取り入れ，発表方法の工夫を通して表現力を高めていく。（新型コロナ対策を行いながら）
- ノート指導の充実を図り，問題解決的な学習による学び方を重視し，自分の予想や考えをしっかりとめさせる。
- 家庭学習について発達段階に合わせた学習の仕方を児童と保護者ともに説明し，充実した家庭学習の実現を目指す。（ICTの活用・ドリルパークなど）
- 児童の実態から児童に付けたい力を考え，目指す児童像を改定した。その目指す児童像の実現に向けて全職員共通理解のもと指導にあたる。
- 教育相談などを通して個々と向き合い，児童の思いを理解して指導・支援にあたる。
- いじめ・生徒指導情報交換などを行い，全職員で子どもたちの指導にあたる。